

<金標準、利下げを織り込み過ぎた反動に注意・・・>



(出所：オアシス)

FOMC の常任メンバーで唯一のタカ派であるウォラーFRB 理事が講演で「経済を減速させ、インフレ率を2%に戻す上で政策が現在、好位置にあるとの確信を私は強めている」と発言するなど、ハト派に触れた発言を受けて市場は利下げありきの動きを強めだしている。またFRBが重要視するPCEデフレーターでも前年比で前月の3.4%を下回る3.0%となるなどインフレは抑制されている動きを示している。特に週末のパウエルFRB議長が講演で「十分に景気抑制的なスタンスを達成したと確信を持って結論づける、あるいは金融緩和の時期について臆測するのは時期尚早だ」と述べても市場は12月のFOMCにおける金利据え置き、来年早々の利上げまで織り込み済みを示すなど、長期10年債の金利は4.197%まで低下し「金利を生まない金」として投資の妙味を強めた状態に思える。そのため11月の高値9743円を超え、9779円まで高値を更新するなど行き過ぎた利下げ織り込みの値動きに思え、格言で示す「中央銀行に逆らうな」の咎めに注意が必要と思える。

<テクニカル>

金標準先物の日足のMACDやRCIでは、MACDはMACDが切り上げながら、シグナルも下げ止まりMACDがシグナルを上回っている。またRCIでも短期と長期が上昇を行ない、高値追いを示唆しているが、高値更新でも指数は前回の高値を上回っていない。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行って下さい。売買の判断はお客様御自身で行って下さい。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 2,360,000 円(2023 年 12 月 4 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 10 倍から 70 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 73,920 円(2023 年 12 月 4 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-5540-8423 (受付時間:平日 8:30~17:30)
証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター
<https://www.nisshokyo.or.jp>